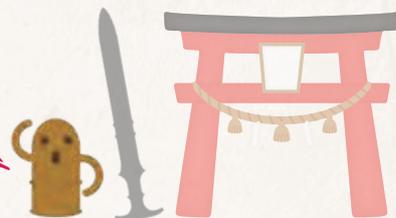


むかしむかし 昔々の そお市

郷土を知る

社会教育課 文化財係 ☎ 099-482-5958

第16回



曾於市の山城



山

城とは、山の地形をそのまま利用し、防衛体制を敷いた城のことです。一般的に城とい

えば石垣と立派な天守閣を持ったものをイメージするかもしれませんが、曾於市にはそのような城、いわゆる近世城郭は一つもなく、全て鎌倉時代から戦国時代末期に築かれた山城です。また、南九州型城郭とも呼ばれ、シラス台地を曲輪とし、崖を空堀として利用し、各曲輪が独立した防衛体制を持っていることが大きな特徴です。

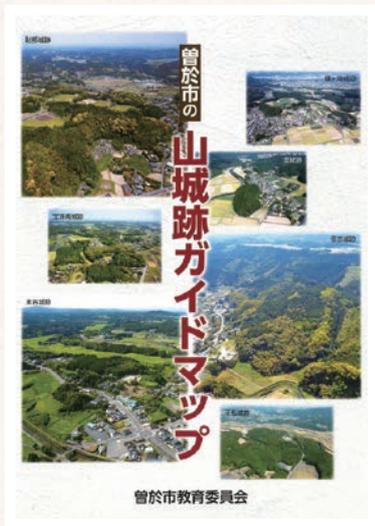
曾於市を代表する恒吉城、末吉城、財部城はいずれも慶長4年(1599)の庄内の乱において、伊集院忠真の本拠地である都城を取り巻く十二外城として整備されました。

庄内の乱に関する軍記によると、6月23日、島津忠長らが恒吉城を攻撃するも城壁堅固のため容易に落とせず25日、樺山久高の説得により恒吉城は降伏しました。その後、忠長らが末吉城を攻めるも、攻め落とせませんでした。庄内の

乱において戦略上重要視されていた財部城は、島津軍の攻撃に耐え抜き、末吉城と財部城は和睦後の開城となりました。

現在、恒吉城跡は大隅町恒吉の麓にあり、城内は曲輪・土塁・空堀・虎口・畝状豎堀群の遺構が良好に残っています。末吉城跡は末吉町

の湯之尻にあり、中城跡や地頭仮屋跡(現ひこばえ保育園)の西側に曲輪や空堀が確認できます。財部城跡は城山公園として整備され、部分的に当時の姿を留めています。ぜひ市内に残る山城を散策し、その魅力にふれていただきたいと思います。



山城ガイドマップ



子どもガイドマップ

市内には他にも多くの城跡があります。詳しくは市立図書館にあります『山城ガイドマップ』、『子どもガイドマップ』をご覧ください。

